

また、近年まで顧問をしていただいた古瀬さん（故人）との出会いも、印象的でした。主人の葬儀の際に、弔辞を読んで戴いたのがご縁で、よくお話を伺うようになった事から、顧問を引き受けて戴ける運びとなりました。顧問料を支払うゆとりが無く、率直にそのことをお話ししたら、「お金は無いけど、顧問になってくれって言ったのは、君が初めてだ」とおっしゃり、快く引き受けてくださいました。壁に飾ってある社訓は、社員全員の案を元に、古瀬さんに選んで戴いたものです。
 一率直に言われる思い切りの良さを、古瀬さんが見込まれたのでしょうか。今後のことや、思うところなど、聞かせてください。

私がこの会社を継いだ時に持った思いと、周囲の方々からの支援でここまでやって来れました。将来、誰かにここをバトンタッチする時が来るでしょう。その時には、私がやってきたことを続けてほしいという気持ちはありません。継いだ人にはその人なりの思いを持って、経営してくれれば良いと思っています。（インタビュー：沼田）

Ruby合宿2011夏



今年も、大学、高等専門学校、高等学校の学生または25歳未満の方を対象に、松江市在住のまつもとゆきひろ氏が開発したオープンソースのプログラミング言語「Ruby」を学ぶ、5日間の合宿形式の講座を開催します。

県内のIT企業の方々にも参加してもらい、参加学生と企業が意見交換を行う交流会や、参加学生が作成したプログラムの発表会を予定しています。

■日程：平成23年8月8日(月)～8月12日(金)

■場所：島根県立青少年の家(サン・レイク) (倉橋)

RubyWorld Conference 2011の開催について



過去2年間、島根県松江市で開催した「RubyWorld Conference」では、Rubyの先進的な利用事例、最新の技術動向、並びに言語仕様の標準化などの様々な情報を、開発者・技術者や、システムユーザなど、Rubyに関わる多くの人々と共有してきました。

今年も、こうした「Rubyのエコシステム（生態系）」を理解できる「RubyWorld Conference」を開催いたします。しまねOSS協議会は、実行委員会の構成機関として、この成功に向けて協力します！

「RubyWorld Conference 2011」

■日時：平成23年9月5日（月）、6日（火）

■場所：島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」国際会議場(3階)、小ホール(1階)

■主催：RubyWorld Conference開催実行委員会

■開催テーマ：Rubyの「エコシステム」～ Rubyが創るビジネス、輝く未来～（杉原）

オープンソースカンファレンス2011 Shimane

オープンソースソフトウェアの祭典、オープンソースカンファレンスを今年も開催いたします。

最先端の技術を紹介するセミナーや実際にオープンソースソフトウェアを活用しておられるユーザーのセミナー、実機に触れながら体験出来る展示ブースなど、すでにオープンソースソフトウェアに深く携わっておられる方はもちろん、これから使いたいと考えておられる方にとっても大変有意義な場になると自信をもって紹介いたします。是非、皆様お誘い合わせのうえ、お立ち寄り頂ければと思います。

■開催日：2011年11月12日（土）10:00～18:00

■場所：松江テルサ4階および別館2階オープンソースラボ

■公式Webサイト：<http://www.ospn.jp/osc2011-shimane/> (きむら)

編集後記



松江Ruby会議03に参加しましたが、普段Matsue.rbでお話を伺っている方の講演を聴くことができたいへん興味深かったです。また次回の開催を楽しみにしています。

(加藤)

このニュースレターはOpenOffice.orgで作られています。

島根大学講義「オープンソースと地域振興」



島根大学では2007年から「オープンソースと地域振興」をテーマにした講義を開講し、オープンソースの開発者、研究者を招いてオープンソースやRubyと地域やビジネスとの関わりを講義しています。

今年も国内外から講師をお招きして講義を開講しましたが、7月8日(金)の講義では中国から王東兵氏(Wang, Dong Bin 中国・清華大学国情報中心研究員)、韓国から李尚徳氏(Yi, Sang Mook 韓国・徳成女子大教授)をお招きして、中国と韓国の政府やビジネス分野でのオープンソースの状況をお話いただきました。隣国でも進むオープンソースの状況に学生たちは熱心に耳を傾けていました。(島根大学 野田哲夫)



「オープンソースと地域振興」では、5月28日に「オープンソースとIT産業」をテーマに講義を行いました。講義では、昨年話題になった「Free(クリス・アンダーソン著)」を取り上げて身近なものが何故「Free」で提供されているのか、学生さんと一緒に考えました。

講義の後半では、島根県内のIT企業の事例として、株式会社ティーエム21(宮崎 照社長)、ファーエンドテクノロジー株式会社(前田 剛社長)、株式会社イーストバック(倉橋 徹社長)の事例を取り上げさせていただき、それぞれの会社のビジネス展開やオープンソースとビジネスの考え方を紹介しました。身近な事例として学生さん達もとても興味を持っていました。身近にベンチャー企業立ち上げやオープンソース活用の事例があることは、この地域の大きな強みであると思います。

(丹生)

松江Ruby会議03



■最初に

2011年7月3日(日)、松江Ruby会議03が開催されました。島根大学のプロジェクトとして2009年に開催し、産官学で取り組んだ2010年の開催を経て、今回はスタッフを公募し、コミュニティを中心とした開催となりました。

■開会(13:00～13:15)

実行委員代表の高尾宏治氏より開催の挨拶及び、今回の松江Ruby会議03の開催についてのお話がありました。

またドラえもんのお話を聞いたゲームを会場全員で行い、参加者の気持ちが和らぎました。

■基調講演(13:15～13:45)

「世界最初のRubyユーザ」

まつもとゆきひろ氏のご都合により、イベント当日は出席が難しいとのことでしたので、事前にビデオ撮影したものの基調講演でした。



鶴原 隆一氏

■Rubyを利用したシステム開発の事例紹介 (14:00~15:45)

「ユーザーとともに取り組むRubyによる開発」

(株式会社出雲村田製作所 宇畑 洋介氏)
(株式会社テクノプロジェクト 鶴原 隆一氏)

- Rubyアジャイル開発のユーザー側、システム会社側の両面からのレポート
- 開発側の感想として、本でいくら読んでも実感が湧かなかったことも読むより実践が重要だと。また、Rubyは生産性向上のツールが豊富だったので良かった。(鶴原氏)
- システム部門の改革。Rubyアジャイルを通じて、ビジネス価値を創造できる。(宇畑氏)

会場には、アジャイル侍 角谷さんを迎えて贅沢な講演でした。最後に、「成功の原因は、互いにお金のやり取りが無かったからか？」との質問があり、逆に現場レベルで、コミュニケーションを密に取ることで、アジャイルプロジェクトを成功に導くのではと感じました。

「Rubyのアプリケーションのためのテストベッドサーバの概要と活用方法」

(島根大学 野田 哲夫氏)
(島根県立情報科学高等学校 永田 亨氏)

仮想マシンを使って、ブラウザ経由で多数のOSを扱えるテストベッドサーバに関する事例紹介でした。

OSS開発でよく挙がる問題の1つに「多数のプラットフォーム上での動作検証」があると思いますが、個人ではどうしても限界のあるこうした問題への一つの解決策になるのでは、と思いながら聞かせて頂きました。

実現に当たって注意した点として、「枯れた技術を採用する」ということを意識していた、という説明が印象に残っています。

■先取りRuby会議2011 (16:00~16:45)

2011. 07. 16より開催されるRuby会議2011において、発表予定の4つのプレゼンテーションの概要の発表がありました。

「CRubyGCの並列世界」

(株式会社ネットワーク応用通信研究所 nari氏)
機械のトラブルがありました。最終的に発表ができました。並列マークの概要、制限についても言及がありました。ユニークなイラストも手伝ってGCがより身近なものになったのではないかと思います。

「Rubyマスターへの道」

(株式会社ネットワーク応用通信研究所 原 悠氏)
本番の2週間も前であるため、残念ながら資料が間に合わなかったとの事でしたが、それをもネタにする原氏らしいスライドの作成で場が和みました。今回は本番の代わりに氏の提案するEnumerable. lazy. mapの紹介がありました。

これはきっと、より直感的なコードを書く技術を身につける事が10年後にはRubyマスターになるための道筋という事なのかもしれません。

「JIS X 3017の読み方」

(株式会社ネットワーク応用通信研究所 前田 修吾氏)
人間にとってやさしくある(直感的である)コードを書くためには、実は細部は複雑で、それを誤解のない文章にするからRubyのJIS規格は難しいようです。そんな複雑な機能の仕様は必要な部分だけを読む事が重要との事でしたが、実際に実行しながら読む事で、慣れれば案外読みやすいのかもしれないと思いました。

「MacRuby on Rails ~MacRubyから見たcRuby~」

(株式会社ネットワーク応用通信研究所 高尾 宏治氏)
MacRubyがMacintoshでRubyやRuby on Railsを動作させるのには越えるべき山がまだ沢山あるようです。ネイティブの機能を多用してMacRubyが完成すれば、cRubyとの性能比較などにより、お互いが進歩する事が理想と感じました。



宇畑 洋介氏



野田 哲夫氏



永田 亨氏



nari氏



原 悠氏



前田 修吾氏



高尾 宏治氏

■ライトニングトークス (17:00~17:45)

- 当日受付も含め、10名の参加者によるライトニングトークスが行われました。
- 「Ruby新リファレンス(るりま)5分アピール」(橋本 将氏)
- 「勉強会! やったもん勝ち!!」(あみだく氏)
- 「広島Rubyの紹介」(TKT氏)
- 「Rubyと松商」(大屋 純一氏)
- 「松江市のRubyに関する取り組み」(森脇 直則氏)
- 「ルビーとわたし」(小数賀 崇氏)
- 「Ruby合宿2011夏 & OPAL SNS」(くらっと氏)
- 「新たなコミュニティ活動始動!」(鶴原 隆一氏)
- 「Ruby + HTML5」(井上 裕之氏)
- 「『社労士Rubist』という新ジャンルを目指して」(内部 高志氏)

■閉会

高尾宏治氏より、今回の開催の振り返り、そして来年の松江Ruby会議に向けての思いなどのお話があり、松江Ruby会議03を閉会しました。



橋本氏 あみだく氏 TKT氏



大屋氏 森脇氏 小数賀氏



くらっと氏 鶴原氏 井上氏



内部氏

会員企業紹介(第6回)

株式会社 システム工房エム
代表取締役社長 持田 朝子様

一社長になられたきっかけを教えてください。

昭和59年に営業を開始した当社は、夫であった初代社長が自分で立ち上げ、営業から開発まで手掛けていました。広島より帰松し、IT企業を立ち上げ、様々なことに挑戦し、業績も上がり、法人化した事により社員も増えて行きました。しかし、平成7年に夫が42歳で他界し、突然私が経営に携わることになりました。

それまで主婦でしたので、何をどうして良いのか分からないまま、夢中で動いたような気がします。営業もやったことが無い、ましてや開発も全く出来ない。加えて、企業経営については、何もわからない。こんなに大変だと当時分かっていたら、引き受けなかったかも知れません(笑)。きっと周囲からも「システム工房エムも、この先長く無いだろう」と思われていたのではないのでしょうか。

一しかし、ここまでやってこられました。その秘訣は何だと思われますか?

夫は夢をたくさん持った人でした。色々あるその夢の中の一つでも良いから、夢を叶えてあげられたら良いなと思ったことが、ここまでやってきた原動力の一つです。そして二つ目は、幸運な出会いがたくさんあったことです。営業も、システム開発も、何も出来ない私が、ここまでやって来られたのは、本当に社員の皆の頑張りのお陰だと思っています。それが一番大きいです。それも含めて、私、自分と言うのもなんですが、人と出会う運が、とても良いと思うのです。

平成20年6月に株式会社ネットワーク応用通信研究所との業務および資本提携が成立しました。それまで山陰中心に取引しておりました。今後の経営スタイルとして、県外に取引範囲を広げることも考えたのですが、大きなリスクを伴うだけに、なかなか決断できないでいました。

その頃Rubyを地域資源にという松江市の取り組みを耳にしました。県外に打って出ることは難しいけれど、地元でRubyを普及させるということであれば、従来の取引チャネルを生かしたビジネスができるのではないかと考えました。その考えを持って、株式会社ネットワーク応用通信研究所の井上社長を訪ねたところ、とても早く話が進んだのです。



(持田様 写真右)

〒690-0017 島根県松江市西津田3-2-3
TEL 0852-23-8590
http://www.kouboum.co.jp/
昭和59年設立。昭和62年5月に法人化。
地元松江市で経理・販売系基幹システムを開発・提供。島根県警の「ミコピーメール」や聴覚の不自由な人向けWeb110番システムを開発。Rubyインターネット認定企業で、現在は JRubyやRuby/RORのほか、Rhodesを利用したソフトの開発にも力を入れている。「アンドロイド端末で持ち歩くデジタルカタログ」が、第3回松江オープンソース活用ビジネスプランコンテストにおいて最優秀賞受賞。

